

物理探査結果の評価手法確立のための実証実験の実施について(案)

1. 目的

毒ガス弾に関する環境調査の一環として実施している物理探査は、地表面から掘削せずに埋設物の情報が得られる技術である。しかし、現時点では毒ガス弾を対象にした物理探査の知見の集積が十分ではなく、探査結果を評価する技術は十分には確立されていない。

このため、毒ガス弾模擬物を埋立し、埋設物を各種の探査方法で探査することにより、物理探査の結果の評価方法を確立する。

2. 実施時期

現場での実験：平成16年7月～8月中旬、解析：8月下旬～

3. 実験内容

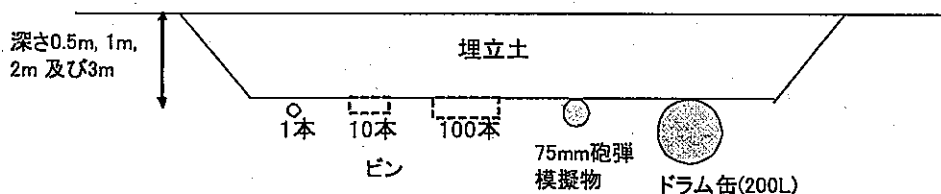
深さ 0.5m～3m 程度の穴を掘り、毒ガス弾等の模擬物を埋設して、各種の物理探査を行い、検知の度合いを調査する。

(1) 埋設物（調査対象物）

- ① ビン：1本、10本、100本
- ② 金属：75mm 弾の模擬物（立て置き、横置き）、赤筒模擬物、200L ドラム缶（横置き）

(2) 埋設深さ (m)

- ① ビン：0.5m, 1m, 2m, 3m
- ② 金属：1m, 2m, 3m



実験イメージ図

(3) 物理探査の種類

- ①磁気探査、②レーダー探査（200MHz, 400MHz）

4. その他

重点調査範囲において、追加的に実施する可能性のある各種物理探査技術（電磁探査、電気探査、鉛直物理探査等）の実証実験も併せて行い、各種技術の能力を把握する。